

2016年（平成28年）

ハタハタ情報 No.2

平成28年10月28日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

－後日にインターネットからもご覧いただけます－↓

マリンネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2016年10月14日～10月22日

【調査海域】 留萌沖の水深200～300mの海域4調査点でトロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。計18尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 海況悪く留萌沖の曳網回数は4回のみ。1マイル曳網あたり平均3.2尾と先月の調査と同様に採集密度は低水準。
- 2歳魚が75%を占め先月の調査より2歳以上の割合がさらに増えた。魚体は昨年より大きくなる見込み。
- 成熟の進行は近年の傾向と同じか、やや早い。沿岸前浜への来遊は11月中旬目安か。

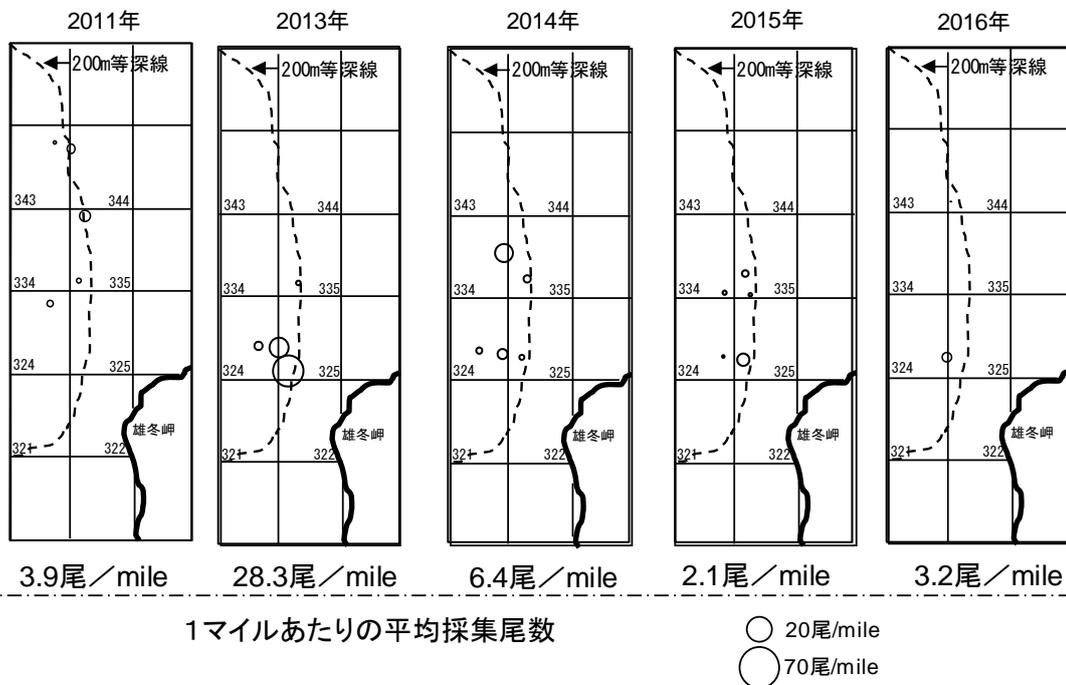


図1 10月トロール調査による採集尾数（0歳魚は除く）

※2012年は海況不良により調査ができなかった。

1. ハタハタの分布状況 (図1)

今回の調査は連日のシケ続きでトロールの曳網が可能な日が僅かしかなく、例年のハタハタ分布海域では辛うじて4回曳網することができました。採集尾数は0歳魚を除いて18尾、1マイルあたり3.2尾と、昨年同時期あるいは先月のトロール調査同様、あまり分布は多くないようでした。

2. ハタハタの魚体サイズと年齢 (図2)

今回の調査で採集されたハタハタの年齢構成は、2歳魚(2014年級)が75%、3歳魚(2013年級)が20%で、2歳魚が68%を占めた先月の調査と同様に2歳魚主体の傾向となりました。2歳魚の平均体長は雄で164mm、雌で174mmと、ここ数年の低成長傾向がみられず、以前の平均的なサイズとなりました。また、10月19日に水揚げされた増毛のえびこぎ漁獲物も88%が2歳魚であり、漁期前の予想通り2歳魚主体の展開となっているようです。これらのことから、1歳魚が主体となった昨年漁期に比べると、魚体は比較的大型組成になるのではないかと考えられました。

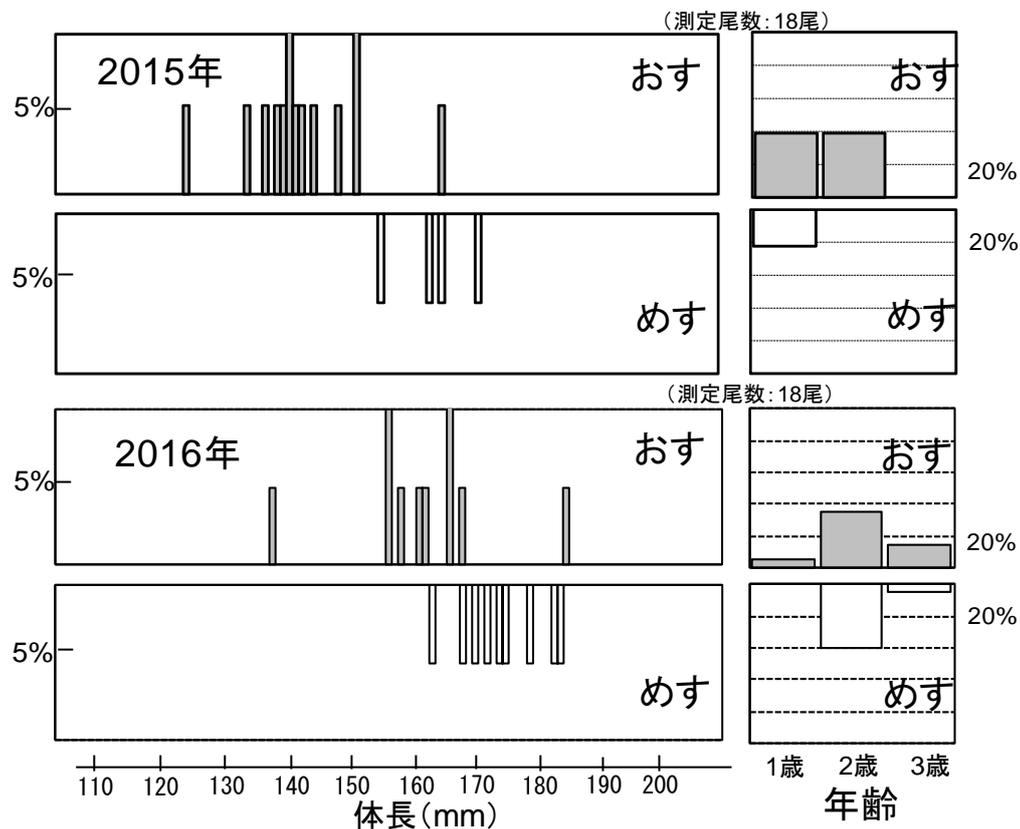


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成

上段図：昨年(2015年)調査 下段図：今回の調査 ※0歳魚は除く

3. 成熟状態 (図3)

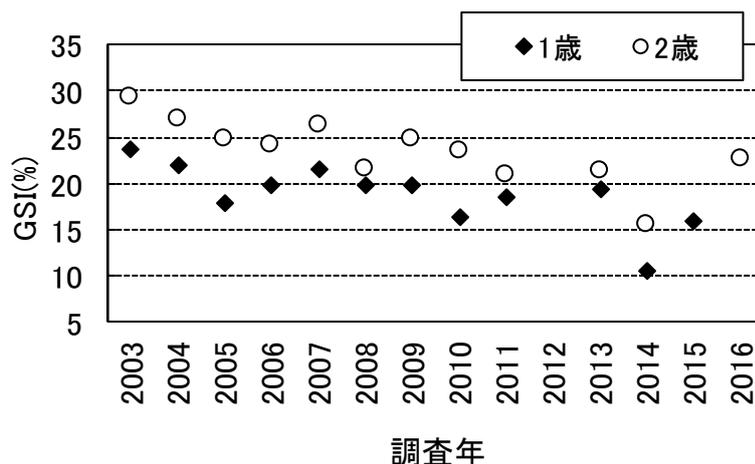


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣(ブリコ)重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40%前後の値となります。上記のとおり今漁期の主体と予想される2歳魚については、雌の平均GSIが22.5%と、過去に2歳魚が漁獲主体となった2008年や2010年と同程度か若干高い値となりました。これらの年の前浜の初漁日がそれぞれ11月10日、17日であったことをふまえると、今期の石狩湾前浜への来遊は11月中旬が目安となり、その前後の水温や海況に応じて来遊してくるのではないかと考えられます。

4. 水温 (図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖の表層から底層にかけての水温測定結果を、同時期の過去5年平均値（調査ができなかった2012年を除く）と併せて示しました。水温躍層（水温が大きく変化する水深帯）は50m付近にあり、それより浅い範囲では平年より低め、深い範囲では150m付近まで平年並となっていました。

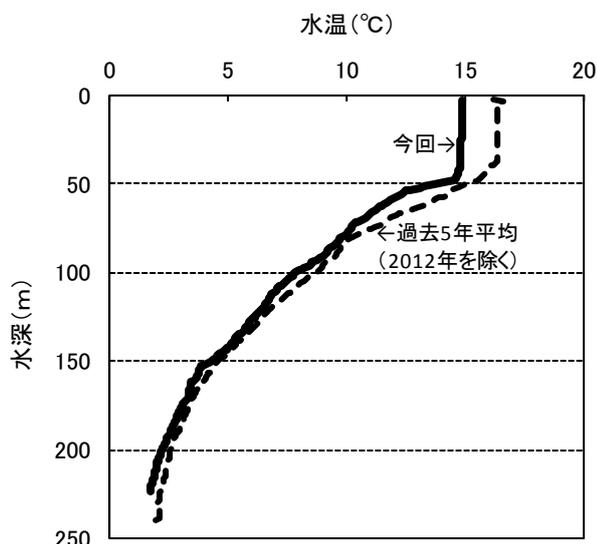


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の雄冬沖における調査船トロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力よろしく願いいたします。